連携賞 応募申請書

（様式２）

廃棄していた紙資源を活用したアップサイクル文具「裏紙メモ帳」（原貿易株式会社×株式会社大川印刷×株式会社kitafuku×有限会社クリオシティ）

取組の概要

原貿易が展開するリユーストナー部材事業の品質試験によって発生する裏紙（片面が印刷されたコピー紙）。こちらの資源活用・廃棄削減を目的としたオリジナルメモ帳を制作しました。製造は大川印刷、表紙のクラフトビールペーパーはkitafuku、配達はクリオシティと、地域企業との共創により環境に優しいアップサイクル文具が完成しました。

該当するSDGs目標
（３つまで）









取組を始めた動機・課題

リユーストナーの品質保証のためには不可欠な印刷試験によって、毎年数十万枚もの“裏紙”が発生。メモ用紙や社内資料の印刷用紙としての利用やリサイクル回収依頼などを行っていましたが、より資源活用・廃棄削減への興味喚起につながる取り組みを検討していた中で、周年記念ノベルティとして裏紙で何か作れないか大川印刷に相談し、企画が実現。

解決に向けた具体策と成果

裏紙メモ帳は環境意識の啓発・PRを兼ね、周年記念日当日にクリオシティのカーゴバイクで社員たちの元に届けられました。後日、社外からも取材依頼などの反響がありました。

取組による定量的な効果

取材・講演件数　2件／販売の引き合い　3件／プレスリリースのいいね数　123件（26年7月完成～9月時点）

連携のポイント

＜できることから・無理なく・楽しく＞を大切にしたサステナブル活動は、社内外に共感・協力の輪が広がりやすい

連携賞 応募申請書

（様式２）

廃棄繊維 × リサイクルウレタン　2社の強みでつなぐ、新たな資源循環
（舞岡フォーム株式会社×株式会社BPLab）

取組の概要

かながわSDGsパートナー同士の連携を契機に、**ウレタンのリサイクル技術を持つ舞岡フォーム**と、**衣類・繊維の資源循環に取り組むBPLab**が、それぞれの強みを掛け合わせ、新たな資源循環の取組を展開。**廃棄繊維とリサイクルウレタンを組み合わせ**、コースターやビーチサンダルなど、**これまでにないリサイクル製品の製品化**を実現した。

該当するSDGs目標
（３つまで）







取組を始めた動機・課題

衣類・繊維は**リユースできないものの出口が限られ、焼却・廃棄されやすい**。舞岡フォームは創業以来60年以上、ウレタンのリサイクルに取り組んできた。その技術の用途拡大を進める中、繊維循環に取り組むBPLabと出会い、両社の強みを掛け合わせ、**異なる素材を組み合わせた新たな資源循環モデル**の構築に取り組んだ。

解決に向けた具体策と成果

回収された**廃棄衣料を選別し、リサイクル技術で素材化**。配合した衣料やリサイクルウレタンの**色や素材感を活かし、再生素材の個性が価値として伝わる製品**とした。

取組による定量的な効果

コースター1,000個を製作。ビーチサンダル200足の試験生産・商品化を推進。

連携のポイント

舞岡フォームの**リサイクル技術**とBPLabの**繊維回収・循環設計を融合**し、廃棄繊維の新用途を創出した。

連携賞 応募申請書

（様式２）

児童養護施設との初のコラボビーチクリーンを開催
（日本ムーグ株式会社×公益財団法人かながわ海岸美化財団）

取組の概要

“地域・社会への貢献”の一環として、9/12に神奈川県の大磯海水浴場にて、エリザベス・サンダース・ホームの子どもたちと一緒に初めての合同ビーチクリーンを実施しました。7/31には、かながわ海岸美化財団による海ごみに関する事前説明会を開催することで、「なぜ海ごみが流れ着くのか」について、学んでいただきました。

該当するSDGs目標
（３つまで）









取組を始めた動機・課題

施設長から社会的養護となった子どもたちは、寄付を受けることが慣習化されている為、ビーチクリーン活動を通して社会に価値を提供する側になってもらう機会を提供してほしいと要望がありました。弊社では、既にかながわ海岸美化財団との協働しており、ノウハウがあった為、実現に向けて**検討いたしました。**

解決に向けた具体策と成果

かながわ海岸美化財団様から子どもたちに対して事前学習の実施。施設長から期待以上に子どもたちが積極的にビーチクリーンをしてくれたと評価いただきました。

取組による定量的な効果

事前説明会の参加人数 ：30名
ビーチクリーン参加人数：28名　ごみの量：10袋（18L）

連携のポイント

エリザベス・サンダース・ホームとかながわ海岸美化財団様を繋げることで、清掃に対する意識向上を実現できました。

連携賞 応募申請書

（様式２）

お客さまの「愛用コスメ」を館内装飾へ！お客さまと創る資源循環の実装。
（株式会社モーンガータ×株式会社OPA 新百合丘オーパ）

取組の概要

新百合丘オーパの「地域のコミュニティ拠点」、モーンガータの**「役目を終えたコスメを色材化する技術」**を連携。

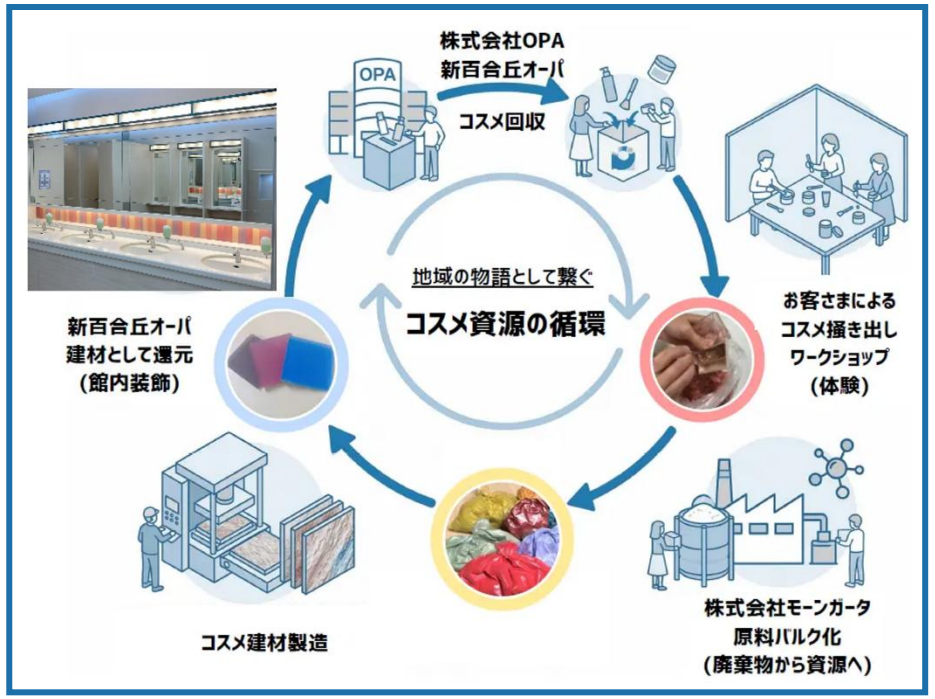
さらに、お客さま参加型ワークショップで回収・分別したコスメを建材へ生まれ変わらせ、コスメ本来が持つ色彩やキラメキで彩る館内パウダールームを実装しました。両者の強みを活かし、**日常に溶け込む身近な資源循環**を実現する取組です。

該当するSDGs目標
（３つまで）









取組を始めた動機・課題

廃棄コスメは化粧品業界やユーザー共通の課題であり、手放す際の**「もったいない」という心理的負担**も伴っています。地域の拠点である新百合丘オーパがハブとなり、お客さまの愛着あるコスメへの罪悪感を昇華させ、**美しい館内装飾という資源に還元**することで、身近な資源循環を楽しく見える化したいと考えたことが本取組の動機です。

解決に向けた具体策と成果

コスメの回収・掻き出しワークショップで**お客さま自ら中身を分別**。それを唯一無二の風合いを持つ**館内装飾へ還元**し、お客さまの想いを施設の一部として可視化しました。

取組による定量的な効果

421個のコスメを回収し、**約1kg**を掻き出し建材化。館内の男女トイレ2箇所と休憩スペースの**計3箇所**に施工しました。

連携のポイント

新百合丘オーパの**地域顧客層**とモーンガータの**技術力**を掛け合わせ、**体験から店舗実装までを共創**した点です。

連携賞 応募申請書

（様式２）

学童×メダカで学ぶ「放さない約束」
（一般社団法人IMA国際メダカ愛好会 × 株式会社明日葉）

取組の概要

株式会社明日葉が運営するASHITA∞キッズ神奈中本厚木で、IMAが改良メダカを使った小学生向け体験型環境教育を実施。実物観察とクイズを通じ、命を預かる責任、正しい飼育、改良メダカを自然へ放さない理由を学ぶ機会をつくった。

該当するSDGs目標
（３つまで）



2025年12月26日｜
ASHITA∞キッズ神奈中本厚木

株式会社明日葉
会場・児童対応

↔

IMA
教材・講師・メダカ

小学生の体験学習
実物観察 → 飼育責任 → 放流禁止



取組を始めた動機・課題

学童では、子どもが日常生活の延長で参加できる体験活動が求められる。一方、IMAは学校・科学館等で培ったメダカ教育を地域へ広げたいと考えていた。明日葉の学童運営力とIMAの生き物・環境教育の専門性を組み合わせ、身近な施設で学べる機会をつくった。

解決に向けた具体策と成果

明日葉が会場・児童対応を担い、IMAが教材・講師・メダカを提供。観察→飼育責任→放流禁止までを体験型で実施。

取組による定量的な効果

2025年12月26日、学童1施設で小学生向け体験教室を1回実施。

連携のポイント

学童の現場力×IMAの専門性。既存施設で実施でき、他施設へ展開しやすい。

連携賞 応募申請書

（様式２）

対面講座活動のネットコミュニティ・デビュー事業
（任意団体「シニア・ハマ・カレッジ」運営委員会×PIAZZA株式会社）

取組の概要

設立15年来、市民のための公開講座を**「リアル教室受講方法のみ」で提供してきたカレッジ（略称）の実現力**と、情報通信業・PIAZZA㈱の**ネット社会事業方法との協働リアル事業**を実現できた。カレッジ主催事業に受講生としてPIAZZA㈱より2名の参加にて、リアル講座の作り方、開催の仕方を学んでもらった。この相互連携は、現在も次のステップに進行中。

該当するSDGs目標
（３つまで）















取組を始めた動機・課題

地域市民を対象とする教育の機会提供活動を、ネット社会にも提供する、という発想を初めて持った。**情報通信事業社・PIAZZA㈱の事業の仕組みを活用し、お互いの最も得意な面を活かしあう協働事業の実現を検討しあった。**
カレッジにとって、ネット社会を対象にしたことがない。
PIAZZA㈱にとって、リアル講座に登壇する・作る、ができず。

解決に向けた具体策と成果

１－「ネットコミュニティ・デビュー」公開講座成功。主催：カレッジ。講師：PIAZZA㈱造士氏。２－「居場所と出番のつかみ方」公開講座。主催：カレッジ。PIAZZA㈱から2名の受講者。

取組による定量的な効果

PIAZZA㈱の独自アプリのサイトに、カレッジの事業広報開始。
カレッジ主催講座で、PIAZZA㈱がリアル講座実習修得した。

連携のポイント

健全な超高齢社会創り教育への志が一致したため、お互いの専門的得意面を掛け合わせた連携事業を2回成功できた。

連携賞 応募申請書

（様式２）

遊んで学ぶ海のスクール
（江の島海水浴場協同組合×サンキホーム株式会社）

取組の概要

藤沢市の海や陸の豊かさを、日本の伝統技術やアップサイクルを通して体験するイベントを開催。子どもたちが全4日間、藤沢市内の竹林での竹取りから加工、デコレーションまでを自ら行い、竹灯籠を制作。完成作品はビーチで発表。自然資源の活用や環境保全を学び、海と陸のつながりや自然を大切にする夏休みの子ども向けイベントを実施。

該当するSDGs目標

（３つまで）









取組を始めた動機・課題

「昼の海とは異なる、夜の海ならではの魅力を夏休みの思い出として子供たちにも体験してもらいたい」という思いをきっかけに、藤沢市内の地元企業様と取り組める企画を始めた。保護者のサポートに頼る部分が大きく、子供たちだけで主体的に活動できる仕組みづくりが課題となる。また後日作った竹灯籠を展示するなども必要と考える。

解決に向けた具体策と成果

子供たちの作品は夏季期間中に藤沢市役所で展示され、多くの人に見てもらうためのパネル等も作成。作品を展示する機会が子供たちの達成感や作品への思いを高めている。

取組による定量的な効果

参加人数として2025年度15人程度参加から今年度は35人参加と増加している。

連携のポイント

海と陸の豊かさを同時に学び、伝統技術やアップサイクルを通じて、自然環境の保全意識を育む。

連携賞 応募申請書

（様式２）

江の島「 片瀬西浜・鵠沼海水浴場」の海の家から出る生ごみをリサイクル
（江の島海水浴場協同組合×藤沢市資源循環協同組合×Ｊ＆Ｔ環境株式会社）

取組の概要

片瀬西浜・鵠沼海水浴場で営業する**海の家26軒から発生する生ごみを、株式会社Jバイオフードリサイクルに搬入し、湿式メタン発酵によりリサイクルする取り組みを本年度より開始。**
従来、焼却処分により発生していたCO2の削減による地球温暖化防止対策やごみの減量・資源化を実現する取組を実施。

該当するSDGs目標
（３つまで）





取組を始めた動機・課題

海の家から発生する生ごみを、従来の焼却処分ではなくリサイクルにつなげることで、ごみの減量と資源の有効活用を実現したいと考えたことがきっかけ。取り組みを開始したばかりであることから、運用方法について共通認識を持つことが十分にできておらず、今後は関係者間での情報共有を徹底し、統一した認識のもとで活動を進めていくことが課題となる。

解決に向けた具体策と成果

海の家1軒1軒のスタッフの資源に対する意識を高めゴミ削減の具体的な行動になった。

取組による定量的な効果

この取組により、可燃ごみの約50～60%の焼却量減量が見込まれる。

連携のポイント

海の家から発生する生ごみを再生可能エネルギーの創出につなげ、廃棄物の有効活用を実現

連携賞 応募申請書

（様式２）

創業72年の食品工場の取組を、大学1年生の目線で広く世の中に伝えていく（東京中央食品株式会社×東海大学広報メディア学科 Spinach!!）

取組の概要

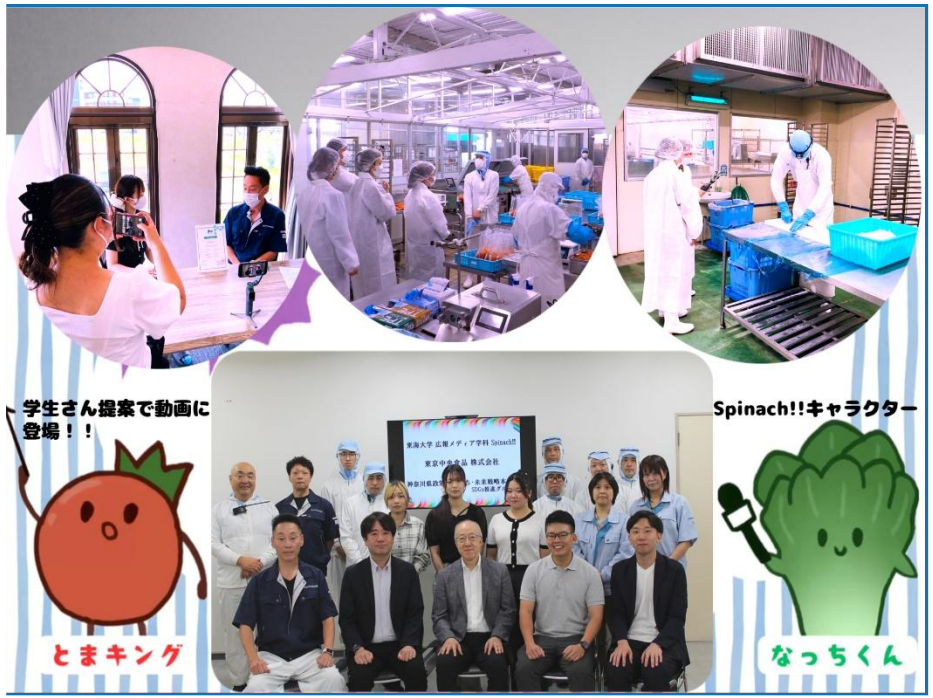
東京中央食品㈱(以下、T社)伊勢原工場の食品衛生・環境負荷低減・ES向上等の様々な取組の紹介を目的に、学生団体Spinach!!所属の大学1年生が若者目線で11本のショート動画を作成した。**学生達は老舗企業のSDGs達成への取組を深く理解して表現する機会を得た一方、T社は自社の取組を内省し、ステークホルダーに価値を発信する手段を獲得した。**

該当するSDGs目標
（３つまで）









取組を始めた動機・課題

伊勢原工場では、①**電気量消費17,900kWh($CO_2$45t分)/年削減**、②**水使用量1320t削減**、③**洗剤93%削減**、④**社員全員10連休取得**などの大きな成果を挙げたが、それらを効果的に伝える手段を持っていなかった。Spinach!! は1年生の活動題材を探していた中、神奈川県庁の協力も得て両者の引き合わせが実現、約6ヶ月に渡るプロジェクトが始動した。

解決に向けた具体策と成果

本年4月以降、工場見学や役職員インタビューを通じ、学生がT社の企業文化や価値観に触れる機会を提供。それを踏まえ、学生の感性を大切にした会社紹介動画を11本製作した。

取組による定量的な効果

約7.5万人が訪れる東海大学の建学祭での上映会開催、T社の千以上の得意先への配信を通じ、T社の価値を内外に発信。

連携のポイント

SDGs達成に向けた中小企業の取組を題材に官民学連携のプロジェクトを組成し、若者目線で企業価値を見える化した。

連携賞 応募申請書

（様式２）

高齢者の食の楽しみと栄養を支えるカロリッチを介護施設へ広げる
（株式会社笑美面×エバラ食品工業株式会社）

取組の概要

笑美面が介護施設の開拓、全体調整を担当し、エバラ食品工業が味付け技術や商品開発力を生かした介護食を提供。介護施設が試食評価や運用検証を担い、神奈川県が広報や連携を支援。各者の強みを結集し、高齢者の食の楽しみ向上と持続可能な食支援モデルの構築を目指す。全国展開も視野に入れる

該当するSDGs目標
（３つまで）







取組を始めた動機・課題

要介護高齢者向けのミキサー食やペースト食は栄養を確保できる一方、見た目や味に課題があり食欲低下や低栄養につながる場合がある。高齢者が食べる喜びを維持し健康寿命の延伸につなげることに加え、現場職員の負担にも配慮した持続可能な提供方法を検証するため、本プロジェクトを開始し、地域全体で推進

解決に向けた具体策と成果

カロリッチの商材をいくつかの介護施設運営企業に説明、試食等を行い、導入に興味を持つ介護施設をピックアップすることができている状況

取組による定量的な効果

県内の介護施設運営会社3社（施設数では数十施設）以上とアライアンスを組める状態

連携のポイント

笑美面の介護現場ネットワーク、エバラ食品工業の商品開発力、神奈川県の発信力を結集し高齢者支援を推進

連携賞 応募申請書

（様式２）

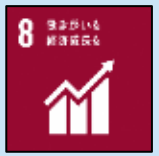
ビジネスケアラー支援と健康経営の推進
（株式会社笑美面×東京中央食品グループ）

取組の概要

笑美面の介護領域の専門性を生かしたビジネスケアラー支援と、東京中央食品の健康経営・人的資本経営への先進的な取組を掛け合わせ、従業員の介護実態把握、リテラシー向上、個別相談を実施。仕事と介護を両立できる職場環境を構築し、従業員のウェルビーイング向上と介護離職予防を通じ、神奈川県のSDGs推進に貢献する。

該当するSDGs目標
（３つまで）









取組を始めた動機・課題

笑美面は、インパクト企業としてビジネスケアラーの負担軽減を社会に広げるため、企業との実証機会の創出を目指している。東京中央食品では、人的資本戦略のさらなる充実に加え、グループ全体で従業員の介護に直面する世代が増加傾向にあり、今後増加が見込まれる仕事と介護の両立へ備えるため、両社の課題意識が一致し取組を開始した。

解決に向けた具体策と成果

介護実態アンケートで潜在課題を可視化。介護WEBサイトの活用で知識を高め、専門相談を通じて個々の介護課題を解決し、仕事と介護の両立と負担軽減につなげる。

取組による定量的な効果

・介護アンケートによる現状可視化（143名）・介護両立者（12名）・介護相談（1名）　※2026年10月実施での取組

連携のポイント

笑美面の介護専門性と東京中央食品の人的資本経営を掛け合わせ、仕事と介護の両立モデルを実証・発信する。